

永和信用金庫様から寄附金をいただきました

永和信用金庫さんでは、お客様に地球環境問題を訴え、一人でも多くの方に関心を持ってもらうことを目的に、個人向け定期積金「えいワエコ定期積金」を昨年8月から9月の2ヶ月間募集されました。この間の契約高の中から40万円を、地球温暖化防止活動に役立てるため、去る1月29日に大阪府地球温暖化防止活動推進センターに寄附されました。寄附されたお金は、センターの活動費用の一部に充当します。



永和信用金庫 小林泰理理事長(右)と一般財団法人大阪府みどり公社 齊藤康彦理事長

大阪府民の森 イベント情報

【2014年 3月~6月】

ミズバショウハイキング

【期間】3/30(日) 【時間】9:30~15:30
【場所】くろんど園地 【料金】500円/人
【雨天】少雨決行
【受付】(一財)大阪府みどり公社 TEL:06-6266-1038
春のくろんど園地を巡るハイキング。春を告げる白い恋人に会いに行きませんか?

ぼくとわたしの「昆虫園」I

【期間】4/13(日) 【時間】9:30~15:00
【場所】なるかわ園地 【料金】500円/人
【雨天】少雨決行
【受付】らくらくセンターハウスにて随時受付
森の生き物を観察しながらミニチュアクラフトに挑戦してみよう!

ツツジトレッキング

【期間】4/13(日) 【時間】9:30~15:30
【場所】ほしだ園地 【料金】500円/人
【雨天】少雨決行
【受付】(一財)大阪府みどり公社 TEL:06-6266-1038
ほしだ園地に咲き誇る、コバノミツバツツジを見に行こう!

星空観察会

【期間】4/26(土)、28(月)、5/3(土)、5(月)、6/7(土)
【時間】19:30~21:00 【場所】ちはや園地
【料金】500円/人 【雨天】少雨決行
【受付】星と自然のミュージアム TEL:0721-74-0056
金剛山に泊まって、星見台で星座の観察をしよう! 星屋や惑星を、400mmの反射望遠鏡で観察できます。

石窯ピザづくりとレンジャーガイド

【期間】4/26(土) 【時間】11:00~15:00
【場所】なるかわ園地 【料金】1,500円/人
【雨天】少雨決行
【受付】(一財)大阪府みどり公社 TEL:06-6266-1038
山の上のキャンプ場の石窯でピザづくりに挑戦! ちはや園地のショートガイドもあるよ!

自然素材でクラフト

【期間】4/29(火・祝)、5/4(日)
【時間】13:00~15:00 【場所】ちはや園地
【料金】500円/人 【雨天】少雨決行
【受付】星と自然のミュージアム TEL:0721-74-0056
ちはや園地の森で集めた木の実や小枝でかわいいう動物クラフトづくり。

イベント担当/(一財)大阪府みどり公社 吉田
TEL:06-6266-1038 FAX:06-6266-8665
mail: ryokka@osaka-midori.jp

詳しくはホームページ

大阪府民の森

パークレンジャーまつり

【期間】5/5(月) 【時間】11:00~15:00
【場所】ほしだ園地 【料金】500円/人
【雨天】少雨決行
【受付】わんぱく広場にて随時受付
府民の森パークレンジャーが集まって、いろいろなイベントを開催するよ!

花の生駒ハイキング

【期間】5/11(日) 【時間】9:30~15:00
【場所】なるかわ園地 【料金】500円/人
【雨天】少雨決行
【受付】(一財)大阪府みどり公社 TEL:06-6266-1038
なるかわ園地のツツジ園地をめぐるハイキング。春の生駒山を紹介します!

野鳥観察会

【期間】5/18(日) 【時間】9:30~12:00
【場所】ちはや園地 【料金】500円/人
【雨天】少雨決行
【受付】星と自然のミュージアム TEL:0721-74-0056
初心者のための野鳥観察入門。双眼鏡の使い方から始めます。

おもしろウォーク

【期間】5/18(日) 【時間】10:30~15:00
【場所】ほしだ園地 【料金】500円/人
【雨天】少雨決行
【受付】わんぱく広場にて随時受付
ほしだ園地の自然に触れながらクイズラリーに挑戦! ゲームをしながら自然の不思議を感じてみよう!

ぼくとわたしの「昆虫園」II

【期間】6/15(日) 【時間】9:30~15:00
【場所】なるかわ園地 【料金】500円/人
【雨天】少雨決行
【受付】らくらくセンターハウスにて随時受付
ミニチュア昆虫クラフト第2弾!

ダッチオープンでおもてなし

【期間】6/15(日) 【時間】10:00~16:00
【場所】くろんど園地 【料金】1,500円/人
【雨天】少雨決行
【受付】(一財)大阪府みどり公社 TEL:06-6266-1038
森の中でダッチオープン料理に挑戦!アウトドア初心者も大歓迎!

昔からずっと、これからも。トクして学ぶ、エコマガジン。

えこっとOSAKA

大阪府地球温暖化防止活動推進センター 情報紙



「えこっと」は地球環境を守るために、私たちの暮らしを「ちょこっと(少し)だけ、えーこと(良いこと・やさしい)、エコロジカルにしよう」と、大阪言葉を交えた意味を込めています。
編集・発行/大阪府地球温暖化防止活動推進センター 〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 一般財団法人大阪府みどり公社 TEL:06-6266-1271 FAX:06-6266-8665 http://osaka-midori.jp/
編集協力・印刷/株式会社ワイルハーツ 〒532-0002 大阪市淀川区東三国4-3-1 グロリア240 4F TEL:06-6399-9500 FAX:06-6399-9550 http://www.w-hearts.jp/

CONTENTS

- 1 えこっとこの1枚 メガソーラー シャープ多奈川太陽光発電所
- 2 ACTION! 2014 エコと文化の発信基地 中之島フェスティバルタワー次世代環境術
- 3 えこっと女子会の輪……樽井雅美さん
- 4 イベント情報
- 3 レポート/マッチング・セミナー in KINKI
- 4 読者アンケート

えこっとOSAKAは、カーボンオフセット付の環境にやさしい情報紙です。

冊子1部あたり20.5gのCO2(ライフサイクル)を排出しますが、これを大阪府域の工場において実施された省エネプロジェクトで創出されたクレジットでオフセットしています。

詳しくは

マスコットキャラクター「エコたま」

<http://osaka-midori.jp/carbon/pdf/mukouka.pdf>

アンケートにぜひお答えください。抽選で右記賞品をプレゼントします!

Q1 どこで「えこっとOSAKA」を手に取りましたか?

Q2 今後取り上げて欲しい内容を教えてください

Q3 本紙を読んで環境に対する考え方に変わった事はありますか?

Q4 身近にエコ設備や施設、製品などありましたら教えてください

住所

氏名 男・女 年齢 才 TEL

ご応募はファックス、またはメールで
締切り●平成26年4月30日(水)まで

FAX. 06-6399-9550 または **E-mail: ecotto@w-hearts.jp**

○当選者発表は商品の発送をもってかえさせていただきます
○お答えいただいた内容や個人情報は、「えこっとOSAKA」の紙面制作の目的以外に一切使用いたしません

Present! 5名様
自然木を使用した
「森のおもちゃ」



タヌキ フクロウ

国産の自然木を使用した、やさしい温もりを感じるおもちゃです。組立式なので、作り方は簡単、お部屋のインテリアにもおすすめてです。今回はタヌキとフクロウ2体セットにし、5名様の方へプレゼント!



メガソーラー

シャープ多奈川太陽光発電所(大阪府泉南郡岬町)

シャープ多奈川太陽光発電所は、岬町多奈川地区多目的公園(いまいきパークみさき)内の約3.3haの敷地に、2,700kW規模の太陽電池モジュールを敷設したメガソーラー施設です。2013年3月に商業運転を開始、初年度の総発電量を約296万kWhと見込んでいます。これは、一般家庭の年間消費電力量を3,600kWhと仮定すると、約820世帯分に相当します。発電した電力は、2012年に施行された再生可能エネルギーの固定価格買取制度を利用して、電力会社に買い取られています。

発電所のある公園は、関西国際空港二期事業の埋立て用土砂を搬出した跡地に、「公共と民間が協働で創造する新しい多目的公園」を基本コンセプトとして再整備された区域で、大規模太陽光発電所のほか、緑地や広場、ピオトープ^{※1}などがあります。

シャープ多奈川太陽光発電所は、シャープ株式会社と芙蓉総合リース株式会社が共同で設立した『合同会社クリスタル・クリア・ソーラー』が運営するもので、前述の年間発電量を仮に火力で発電する場合、原油が約67万リットル(200リットル入りドラム缶で

3,350本)^{※2}必要となります。また、CO₂削減効果は、150万kg^{※3}、これを吸収する森林面積は約419ha^{※4}(阪神甲子園球場の約100個分)必要です。

シャープ株式会社ソーラーシステム事業本部の今井隆裕さんによると「太陽光発電は、クリーンな発電方法であると同時に、無限に降り注ぐ太陽の光を利用していることから、再生可能エネルギーの中でも注目されています。この多奈川発電所は、現在稼働中の合同会社クリスタル・クリア・ソーラーの8つの発電所の中で最初に運転を開始した、私たちの出発点とも言える所です。ここ岬町での実績と経験を今後活かして、太陽光発電のさらなる普及に努めて参ります。」とのこと。

※1「ピオトープ」…河川や公園の整備、まちづくりにおいて、生態系の多様性を維持するため保護された、池や里山などの区域。「いきもの暮らし場」を意味する。

※2、※3 太陽光発電協会(JPEA)の平成24年度業界自主ルール 各々、0.227 リットル/kWh、504.5g-CO₂/kWh

※4 独立行政法人新エネルギー産業技術総合開発機構(NEDO)の太陽光発電導入ガイドブック 0.974tC/ha



ACTION! 2014

エコと文化の発信基地

中之島フェスティバルタワー 次世代環境術



2010年秋に誕生した、中之島フェスティバルタワーは、「水都・大阪」の利点をいかした河川水利用の地域冷暖房システムや、13階のスカイロビー、LED照明、中水利用設備など多彩な環境設備が整えられ、国土交通省の平成21年度「住宅・建築物省CO2推進モデル事業」にも選ばれました。次世代の環境術ともいえるその取組みを紹介します。



中之島の新たなランドマーク

かつてより旧淀川の堂島川や土佐堀川の水運に恵まれた中之島は、江戸時代には諸藩の蔵屋敷が置かれ、大阪が「天下の台所」と称されるにふさわしい賑わいを見せていました。現在も、大阪市中央公会堂や府立国際会議場、国立国際美術館などが建ち、大阪の重要な文化と経済の拠点となっています。

かつて、この地で音楽の殿堂と称えられたフェスティバルホールは、2012年、新たに建て替えられ、高さ200メートル、地上37階、地下3階の「中之島フェスティバルタワー」として生まれ変わりました。現在完成しているのは低層階にホールや商業施設、高層階にテナントオフィスが入るビルですが、四つ橋筋を挟んで西側にも同じ高さのビルが建てられ、3年後にはツインタワーになる予定です。

この建て替え工事の際、フェスティバルタワーには多彩な環境対策が施されました。

河川水利用の冷暖房システム (下図①)

タワー内の空調設備には、中之島という立地を活かし、河川水を利用した地域冷暖房システムを導入しています。建物の冷暖房は通常、ヒートポンプとよばれる機器を使って、夏季は建物内の空気(熱)を屋外に排出することで冷気を暖め、冬季は屋外の熱を空気から取り込んで暖めます。この空気とのやりとりを熱交換とよびますが、フェスティバルタワーの冷暖房システムは、空気の代わりに河川水と熱交換をします。

北側の堂島川から取水された河川水は地下に設置されたプラント内で熱交換され、利用後に南側の土佐堀川へ放水します。河川水は年間を通じ水温が安定し、空気と比べて夏季は冷た



左: 河川水利用冷暖房システム(ヒートポンプ) 上: 取水口(堂島川側)

く、冬季は温かい性質があるため、ヒートポンプが効率よく稼働します。そのため、CO2排出量を約40%削減できます。また、使用済みの水は川へ戻されるので、大気への放熱がなく、ヒートアイランド現象の緩和にも貢献できます。まさに「水都・大阪」にふさわしい環境設備といえるでしょう。このシステムの実現までには、取水された河川水に含まれるごみや泥などを取り除くのに一苦労されたそうです。

なお、このシステムは、タワーがある中之島2丁目と、3丁目一帯をまたいだ大規模な地域冷暖房として稼働する予定です。

スカイロビー (下図②)

地上13階部分に「スカイロビー」と名付けられたテラスを設けています。テラスの天井に隙間を設け、そこから外気が通り抜けるように設計されています。「風の道」とよばれ、ビルが呼吸しているようなイメージです。



「風の道」スカイロビー。天井に設けられたスリット(写真左)から空気が入り出している

さまざまな植栽が配された緑豊かな空間は、利用者をリフレッシュさせるだけでなく、ヒートアイランド現象の抑制にもつながっています。

アクティブスキンとエコボイド (下図③)

タワーの空調対策には他に「アクティブスキン」とよばれる工夫があります。これは、高層階部分のテナントオフィスの外壁を二重ガラスにして、ガラス内を通る空気を季節ごとに調節し、効率のよい空調を実現するというものです。さらに建物内中央部には、スカイロビーから屋上まで縦に貫く「エコボイド」という吹き抜けの空間を作り、外気を直接取り入れて空調に利用しています。

照明の消費電力削減 (下図④)

オフィスゾーンの照明には、LED照明を約2万台配備し、消費電力を低減しています。この規模のオフィスタワーで、これほどのLED照明が配備されるのは関西初のことだそうです。

また、各オフィスの採光面を大き

く確保、明るさセンサーを設置し、むだな照明エネルギーを削減しています。

フェスティバルホールのホワイエ(ロビー)やエントランスに吊られているシャンデリアにもLED照明が効果的に使用されています。メインホワイエの星空をイメージしたシャンデリアは、闇を演出する壁面に浮かび上がったきらめくLEDの光の粒が、訪れた人を幻想的にもてなしてくれます。環境性能に優れたうえに、音楽の殿堂にふさわしい上質な空間を体感できます。

その他の環境対策 (下図⑤)

タワーの地下に中水設備を備え、雨水や空調機、厨房からの排水をトイレの洗浄水として再利用しています。

また、テナントの飲食店から出る使用済み食用油は、専門業者を通じてバイオディーゼル燃料へリサイクルされています。

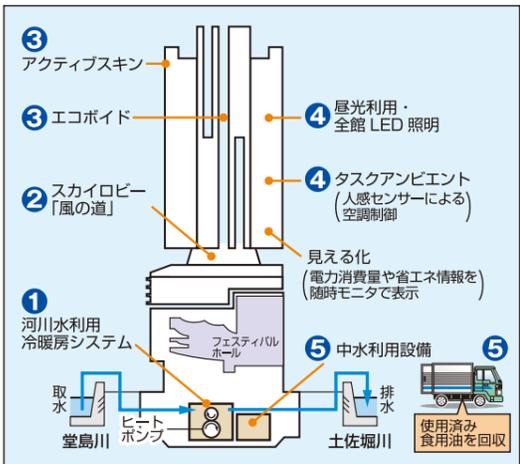
これら各種施策により、年間約7,200トンのCO2を削減できたそうです。同じ規模のビルの場合、年間の排出量は約1万8千トンと算出されることから、実に約40%の削減を達成したことになります。



電力量やホールの省エネ情報を随時スカイロビーで表示

新たなイメージリーダーとして

3年後にはツインタワーとなり、ますますその存在感を示す、フェスティバルタワー。水と街が共鳴しあうこの中之島の地で、これからの大阪の文化とビジネスを支え、さらに環境の面でも、イメージリーダーになっていくことが期待されます。



●中之島フェスティバルタワーの環境品質についての詳細は…http://www.asahi.com/festivaltower/tower/environment.html

レポート



みんなの創意でカーボン・オフセット マッチング・セミナー in KINKI

1月31日(金)、追手門学院大阪城スクエア(大阪市中央区)において「～みんなの創意でカーボン・オフセット～ マッチング・セミナー in KINKI」と題し、地球温暖化防止に向けた有効な手段として注目されているカーボン・オフセット活用制度について講演会が開催されました。カーボン・オフセット活用制度とは、国が進めるJ-クレジット制度などで認証されたクレジット創出事業者からCO2排出権を購入し、環境負荷を低減する仕組みです。今回のセミナーは、クレジット創出事業者と、自社製品やイベントなどで制度を活用したいと検討している近畿の中小企業やNPOなどの、マッチングの機会をつくる試みで開催されました。主催の近畿地域カーボン・オフセット推進ネットワーク(近畿J-クレジット等推進協議会)、齊藤康彦会長の挨拶、環境省市場メカニズム室、三好室長補佐の挨拶と講演に続いて行われた、カーボンフリーコンサルティング(株)、本澤友行氏の講演の中で、この仕組みをいかに商いに取り込み、地域や地球温暖化に貢献するツールとして活用していくのかについて紹介されました。

本澤氏は、東北での産直組合におけるカーボン・オフセット付きりんごの販売や、沖縄県宮古島で開催されたカーボン・オフセット付き市民マラソン大会などの事例をあげ、活用の意義や導入後の効果について解説されました。東北での事例では、地産地消・地産外消型のマーケティング戦略が功を奏し、販路の拡大につながり、宮古島の例では参加者が負担するという地域振興型の活用法が共感を呼んで、参加者増に結びついたそうです。このような成功例を踏まえ、カーボ

ン・オフセットという付加価値を、どのようにブランディングし、発信していくのか、その重要性も本澤氏は述べておられました。

その他、カーボン・オフセットを実践している企業やオフセット・プロバイダーなどの講演が行われました。

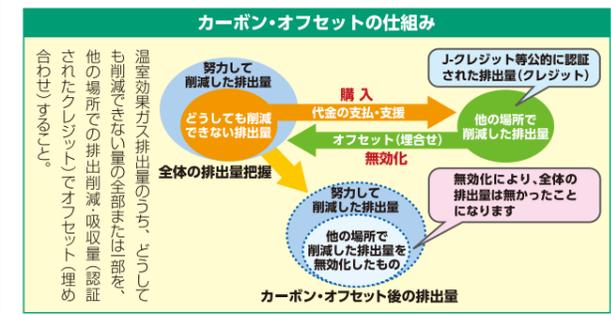
カーボン・オフセットという仕組みを活用することは、地球温暖化防止

に貢献する手立てとなる一方、企業にとっては新たなビジネスのシーズを生む大きなチャンスとなるため、今後の動向が注目されます。

なお、本セミナーでは、来場者から会場までの交通手段を聞き取り、その移動にかかったCO2排出量を算出し、大阪府内で創出されたJ-VERを活用してカーボンオフセットしました。



会場ではクレジット創出事業者と活用事業者のパネルや商品も展示された



●カーボン・オフセット活用についてのお問合せは…近畿地域カーボン・オフセット推進ネットワーク 近畿J-クレジット等推進協議会(事務局/一般財団法人大阪府みどり公社) TEL:06-6266-1271 FAX:06-6266-8665 E-Mail:kinkiyogikai@osaka-midori.jp

えとSAKAの輪

関西圏を中心に環境活動に取り組む、快活で輝いている女性を紹介します。



第4回

樽井 雅美さん

NPO法人関西フンディッシュユニット協会 理事長(本部)/奈良県生駒市

陶磁器を再資源化するため、循環モデル作りに取り組んでいる樽井雅美さん。回収した陶器のうち、まだ使えるものを月に3回、訪れた人に自由に持ち帰ってもらい「もったいない食器市」を生駒市内で開催されています。陶器リユースをめぐる樽井さんの歩みは、人と人のめぐり逢いそのものでした。2003年、スイーツが好きな樽井さんは趣味が高じて洋菓子パティシエを紹介するサイトを開設しました。それがたちまち話題となり、やがてスイーツに関する仕事の依頼が舞い込んでくるようになつていきました。そんな折、食べ終えた陶器のカップが、地元では再生されず最終処分場に運ばれている事実を知ります。「大好きなお菓子を広める仕事は、ゴミを増やすような結果では意味がない。それが、菓子容器の資源循環に取り組みきっかけになったそうです。2006年、岐阜県に廃陶器を再資源化する業者があることを知り、その業者の協力のもと、再生可能な陶器を考案し、プリンカップを作りました。それをテポジット(食べ終えたカップをお店に持ち込むと30円で買い取って貰える)することで回収・再生の流れを作り上げました。このテポジット運動は現在、全国21店舗以上の洋菓子店の賛同を得ています。



「毎月10日は陶器の日」として回収と「もったいない食器市」を開催。詳しい情報は…http://onedish.net/katsudou-mottainai.html

また、大阪の協力企業は府内でも廃陶器を再資源化できる技術を開発してくれました。関西の廃陶器を再資源化する循環モデルが完成したのです。「周りの人が助けてくれたおかげでここまで来られました。」と語る樽井さんの次の目標は、「私達の作った循環モデルを他の自治体にも広げることが使命です。自分たちで行動を起こしていくと明日は変わらない。少しずつでも継続していけば私たちの生活は変えて行けます。」

陶磁器を再資源化するため、循環モデル作りに取り組んでいる樽井雅美さん。回収した陶器のうち、まだ使えるものを月に3回、訪れた人に自由に持ち帰ってもらい「もったいない食器市」を生駒市内で開催されています。陶器リユースをめぐる樽井さんの歩みは、人と人のめぐり逢いそのものでした。2003年、スイーツが好きな樽井さんは趣味が高じて洋菓子パティシエを紹介するサイトを開設しました。それがたちまち話題となり、やがてスイーツに関する仕事の依頼が舞い込んでくるようになつていきました。そんな折、食べ終えた陶器のカップが、地元では再生されず最終処分場に運ばれている事実を知ります。「大好きなお菓子を広める仕事は、ゴミを増やすような結果では意味がない。それが、菓子容器の資源循環に取り組みきっかけになったそうです。2006年、岐阜県に廃陶器を再資源化する業者があることを知り、その業者の協力のもと、再生可能な陶器を考案し、プリンカップを作りました。それをテポジット(食べ終えたカップをお店に持ち込むと30円で買い取って貰える)することで回収・再生の流れを作り上げました。このテポジット運動は現在、全国21店舗以上の洋菓子店の賛同を得ています。